オガサワラカワラヒワ域外保全実施状況
2026年度中間報告（春繁殖の結果）

オガサワラカワラヒワ生息域外飼育繁殖計画の実施体制（小笠原）

事業根拠：オガサワラカワラヒワ生息域外飼育繁殖計画
事業段階：**飼育・繁殖技術の確立**
実 施 者：東京都・公益財団法人東京動物園協会・
　　研究者（NPO法人小笠原自然文化研究所）
実施体制（現地保全）：　東京都小笠原支庁＋ NPO法人小笠原自然文化研究所（IBO）

父島の飼育個体を一群として協働管理

環境省

繁殖ペア・飼育個体を最適に移動
（2026年度より環境省が全個体を所有）

島外移送
技術交流
東京動物園協会

東京都小笠原支庁

父島屋内施設（リフォーム）
・飼育室（中型or連結ケージ、竹カゴ）⇒繁殖
・モニター室（孵卵器/緊急時は金カゴ）⇒人工育雛
・前室（物置）

父島屋外施設（新築）⇒繁殖他

IBO

IBO舎1号 屋内施設（リフォーム）⇒繁殖他　＊1
IBO舎2号 屋内施設（新規）⇒繁殖他　＊2
IBO舎3号 屋内施設（新規／ﾄﾚｰﾗﾊｳｽ）⇒繁殖他　＊2　＊3　＊4

協定

東京都立大学
都立大父島研究施設（既設）⇒検疫・避難

新規ﾌｧｳﾝﾀﾞｰ
捕獲事業にて移送

＊1: IBO単独
＊2: JAC環境動物保護財団
＊3: **小笠原村** 協働
＊4: THD株式会社

図：現地（小笠原）での域外保全の実施体制

【父島施設】2026年　春繁殖の目標・結果概要

今年度（2026年度）の事業目標

・継続的な繁殖成功＝手法の裏付け
・繁殖可能な全成鳥（♀）の繁殖試行=♀待機個体ゼロ

結果概要

2026年4月時点：成鳥♂5羽、♀4羽（内1羽は嘴変形）、亜成鳥♂1羽

飼育施設	父島施設		IBO施設	
飼育ペア	#18♂×#24♀	#14♂×#15♀	#13♂×#9♀	#11♂×#17♀
1クラッチ目	・4卵を産卵 ・全て孵化 ・2羽落鳥、2羽巣立ち ・２羽とも♂ ・足環を装着し集合飼育	・4卵を産卵 ・全て孵化 ・1羽人工育雛 ・4羽とも巣立ち ・足環を装着し集合飼育	・交尾行動は確認 ・繁殖にいたらず ・♀は嘴変形個体であり繁殖不適	・3個産卵 ・3羽孵化、巣立ち ・足環を装着し集合飼育
2クラッチ目		・4卵を産卵 ・全て孵化 ・8/26～8頃巣立ち予定		

春繁殖の実施状況 屋内施設 計２箇所（飼育室・モニター室）

屋内施設

・飼育室
　→繁殖用連結ケージ
・モニター室
　→金かご連結ケージ


金かご連結ケージ


繁殖用連結ケージ



屋外施設

・2025年度補修完了
・通信衛星環境
（スターリンク）
　整備中
(2026年度上半期整備完了)

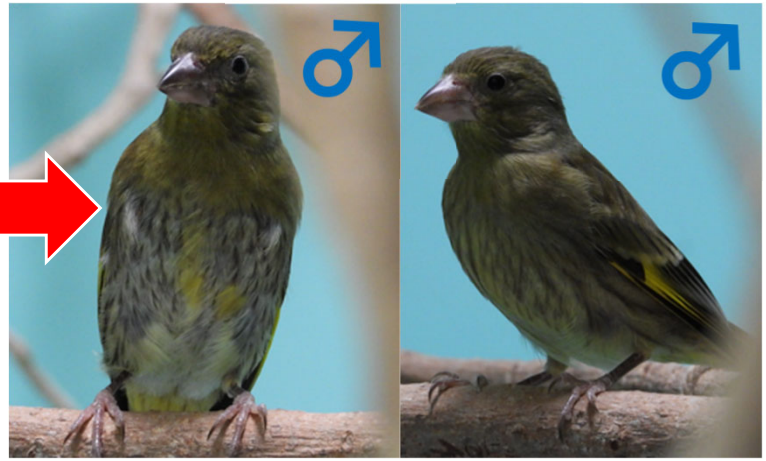

屋外施設

【父島東京都施設】2026年　春繁殖の結果

大神山屋内施設　連結ケージ（#18♂×#24♀）



雛2羽の巣立ち



・53日齢で雌雄判定が可能になった



雛2羽の落鳥
(2羽とも3日齢)

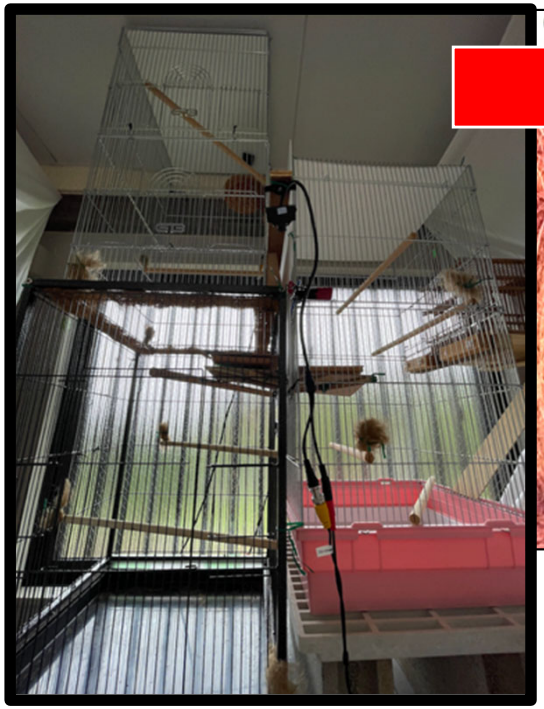
繁殖成功 1例目

・産卵4個、孵化4羽 → 巣立ち2羽（初のf2世代誕生）
　　→ 落鳥2羽

・雛の落鳥　親からの給餌量の偏り（栄養不足）が死因と推定

【父島東京都施設】2026年　春繁殖の結果

大神山屋内施設　連結金カゴ（サグラダ、 #14♂×#15♀）





4卵の孵化

自然育雛



給餌不足個体

人工育雛



2日齢



人工育雛



32日齢

繁殖成功 2例目

- 産卵4個、孵化4羽 → 巣立ち3羽
  → 人工育雛1羽
- 人工育雛の初成功（1日齢～）

- 同一ペア＆ケージで第2クラッチの4卵孵化
  ※ ♀♂短時間面会による交尾

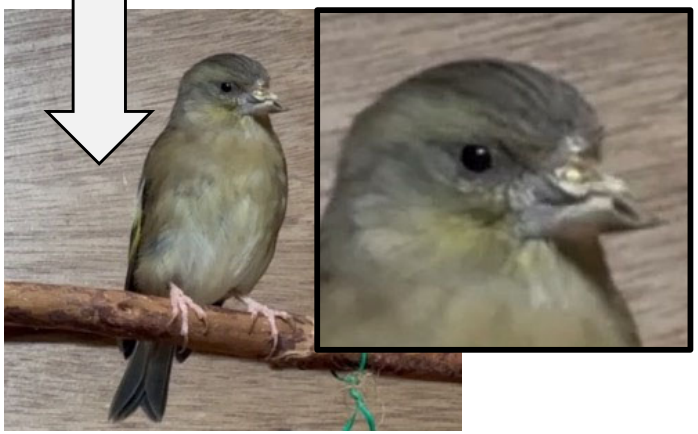
繁殖成功 4例目

【IBO施設】2026年　春繁殖の結果

IBO舎1号

#13♂×#9♀
#22♂×#9♀





繁殖なし（嘴変形♀）

IBO舎2号

#11♂×#27♀





雛3羽の巣立ち

IBO舎3号

#40～43





集合飼育開始

繁殖に至らず

- **嘴変形♀は繁殖不適個体と判定**
  ＊交尾行動までは確認

繁殖成功 3例目

産卵3個
巣立ち3羽

巣立ち雛（特に人工育雛個体）の運動機能向上および社会性獲得のための集合飼育を開始

【父島施設】 2026年　春繁殖　まとめ

●飼育状況（2026年8月3日時点）

・飼育数：21羽

内訳：成鳥 ♂6・♀4（1羽疾病）、幼鳥（巣立ち鳥）9、雛4

●まとめ

・父島飼育群の成鳥♀全4羽で繁殖試行を実現

※ ただし、♀1羽は疾病（嘴変形）により繁殖不適個体と判断

・繁殖成功4例（3ペアで繁殖成功　※同一ペア1組でダブルクラッチ）

ヒナ13羽を飼育中。　2羽が死亡→親からの給餌不足

※東京都施設/巣立ち10羽、IBO施設/巣立ち3羽

・初：f2世代の誕生

・初：人工育雛の成功（1日齢～）

※繁殖試行ペア数は延べ5組（♂のみの交代含む）

※父島の屋内2施設＋1金カゴで繁殖

＊準備中で不使用：屋外1施設

巣立ち成功

9羽/11～12卵/3ペア

※8/12時点での育雛中の4羽

【父島施設】 2026年　繁殖知見の整理

●2025年、2026年までの繁殖生態（父島 n=6）

- 産卵数：3～4卵
- 育雛数：1～4羽
- 抱卵期間：14日前後
- 育雛期間：19日前後
- 巣立ち後、自力採餌確立までの日数：15日～25日（ケージ環境で変動）
- 人工育雛期間（自力採餌確立まで日数：約30日間（1日齢から開始））
- 2クラッチまで進んだペア数：1組（育雛後の再産卵）
- 繁殖行動（営巣・交尾以上）の見られた時期：4月～7月
- 野生個体は隣接ケージで繁殖攪乱の可能性大、f1以降は同施設内の繁殖可能？

●飼育および繁殖手法

- 体重モニター及びカメラモニターによる体調及び繁殖兆候の監視
- お見合い方式による繁殖行動のコントロール（交尾、求愛給餌、精神安定等）
- 分断可能なケージで個体関係の管理（連結中型ケージおよび連結金カゴで通路管理）
- 省スペースの連結金カゴ（通称サグラダ）を使った、巣立ちまでの成功（n=2）
- 人工育雛の初試行・初成功（n=1）

課題・提案

課題1：竹カゴによる個体識別の限界
提案1：父島飼育群でも足環試験を開始→集合飼育を試行
（候補：飼育下繁殖個体）

課題2：竹カゴや金カゴでの飼育による運動機能や社会性獲得の制限
提案2：集合飼育を試行（足環装着が前提条件）
（候補：サグラダ生まれの幼鳥4羽で、機能及び社会性獲得飼育の試行）

課題3：個体数の増加による飼育施設の不足
提案3：新規飼育施設の検討

課題4：人工育雛の方向性の合意（不明瞭であるため）
提案4：積極的な人工育雛移行の実施を提案（手法確立のため/繁殖数確保のため）
人工孵化からの試行はどうするか？

課題5：域外保全ロードマップの再構築
提案5：域外関係者会議等で2026年度に検討を実施する

【上野動物園】2026年　春繁殖　飼育概況

令和７年度までの取組の経緯

・2022年～　オガサワラカワラヒワの飼育繁殖に向けた知見集積のため、カワラヒワの飼育繁殖を開始
・2023年, 2024年　カワラヒワでの飼育繁殖に成功
・2025年3月　オガサワラカワラヒワ父島域外保全個体群より計2羽（♯12♂ ♯16♀）を搬入
・2025年6月　2羽が繁殖（♯25♂ ♯26♀）
・2025年10月 オガサワラカワラヒワ父島域外保全個体群より計2羽（♯23♂ ♯7♀）を搬入
・2025年12月 ♯16♀が死亡

令和８年度は ♯12♂ × ♯7♀
♯23♂ × ♯26♀の2ペアで
繁殖に取り組む



2025年繁殖の様子

【上野動物園】2026年　春繁殖　結果概要

飼育施設	**上野動物園**	
飼育ペア	#２３♂×#２６♀	#１２♂×#７♀
飼育場所	屋内ケージ	屋外ケージ
１クラッチ目	・交尾確認 ・３卵を産卵 **・全て孵化、巣立ち** ・親鳥２羽と同居中 （雛#３４、３５、３６）	・求愛給餌、交尾確認 **・産卵に至らず** ・繁殖行動を促すため、一時的に#12♂を竹籠に隔離

※この他、＃２５♂を竹籠で個別飼育

東園日本の鳥Ⅰ
非展示施設にて飼育



♯23♂ × ♯26♀ 屋内ケージ繁殖経過

日付	繁殖経過
４月２１日	屋内ケージ（８号室）で同居開始
４月２２日	営巣行動を確認
５月９日	産卵、交尾確認
５月１１日	抱卵開始
５月２５日	孵化（３羽） 雛への給餌は♀のみがおこない、♂は♀へ求愛給餌をする
６月１４日	巣立ち（１羽）
６月１５日	全羽巣立ち
６月２６日	雛の自力採食を確認 メスからも給餌をうける
７月８日	オスから雛への追い払いが見られたため 隣接するケージ（７号室）と行き来自由にする
７月１０日	メスから雛への給餌は確認できなくなる

5羽での同居を継続中

【上野動物園】 2026年　春繁殖の結果（ ♯23♂ × ♯26♀ 屋内ケージ）





9日齢



20日齢

♯12♂ × ♯7♀ 屋外ケージ繁殖経過

日付	繁殖経過
４月１３日	屋外ケージで同居開始
４月１７日	営巣行動を確認
６月１日	産卵に至らないため、巣を撤去する
６月２日	営巣継続 交尾行動を確認するも、不成立
８月４日	繁殖行動を促すため、一時的に#12♂を竹籠に隔離





カワラヒワにおける人工育雛技術確立に向けた取組み

１クラッチ目　２０２６年５月２５日産卵分～

産卵条件　金カゴ2連結ケージ内で産卵した６卵を人工孵卵
孵卵条件　昭和孵卵器P03 （37.7 50～55%）放冷２分×２回／日
孵化日数　１４日
孵化数　　４羽　※２卵は死籠りと後期中止
給餌頻度　7時～19時　1時間に1回または45分に1回（個体の成育状況により変更）
給餌内容　①ケイティ・イグザクト・ハンドフィーディングフォーミュラに
生理食塩水と消化酵素を加えたもの
②マズリ・スモールバード・ブリーダーに生理食塩水と消化酵素と
カルシウム剤を加えたもの
①・②で２羽ずつ実施
育雛環境　移送用保育器を使用
温度：36度から0.5度ずつ下げる
湿度：水盤により50%前後とする
結果　　２～３日齢で死亡
死因　　肺炎　腹腔内に消化されなかった水分が溜まっていた

→　育雛環境（温湿度）の見直し、餌内容の見直し



2日齢

カワラヒワにおける人工育雛技術確立に向けた取組み

２クラッチ目　２０２６年６月１９日～２２日産卵分

産卵条件　日本の鳥Ｉ展示室で産卵した４卵を人工孵卵
孵卵条件　昭和孵卵器P03 （37.7 50～55%）放冷２分×２回／日
孵化日数　１４日
孵化数　　３羽　※１卵無精卵
給餌頻度　7時～19時　1時間に1回または45分に1回（個体の成育状況により変更）
給餌内容　**ケイティ・イグザクト・ハンドフィーディングフォーミュラ**
育雛環境　移送用保育器（備え付けの水盤あり）を使用
　　温度：**37**度から少しずつ下げる
　　湿度：水盤により60～**70%**前後とする
結果　　**全羽生育**
　　巣立ち　15日齢
　　1人餌　31日齢
　　（マズリを主食とする）



18日齢



6日齢

【上野動物園】 2026年　繁殖結果と今後の取組み

令和８年度　春繁殖の取組みにより得られた知見

・令和７年度より狭いスペース（4.4㎡）で繁殖が成功
・隣接する部屋で他オス個体を飼育していたが、交尾・産卵に至った
・雛への給餌はメス親のみがおこない、３羽すべてが成育した
・カワラヒワを用いた人工育雛技術についてはおおむね確立できた

今後の取組み

・血縁関係がない個体を上野動物園に導入し、新たなペアの形成を目指す
・上野動物園以外での飼育を開始し、生息域外個体群の収容キャパシティを確保する
・カワラヒワによる人工育雛の知見を取りまとめ、ガイドラインを更新する